

これで、私の質問を終わります。

○議長（小川 廣康君） 答弁はよろしいですか。答弁はよろしいんですね。

○議員（6番 吉見 優子君） じゃ。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 議員御心配のその生ごみの生成袋、これは今、担当部長のほうに聞きますと、2週間ぐらいは溶けませんということでございますので、前の日の夜に出されても、次の日の朝には収集しますので、まず溶けることはないということでございます。

そしてまた、そのコンポストに間違っってそういうようなのが入ったときに、それがどうなるのかということも、担当課のほうでそこら辺も今ずっと調べているということ聞いております。

以上です。

○議員（6番 吉見 優子君） 終わります。

○議長（小川 廣康君） これで、吉見優子君の質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 暫時休憩します。再開を2時50分からといたします。

午後2時37分休憩

午後2時48分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

引き続き市政一般質問を行います。

16番、大部初幸君。

○議員（16番 大部 初幸君） こんにちは。16番の新政会、大部と言います。今回も、私は大船越小学校、中学校卒業ですけど、学校で習った教訓、「清く、正しく、美しく」をモットーに頑張りますんで、笑いが出てますけども、「清く、正しく、美しく」ですから、よろしく願いしときます。（発言する者あり）

それでは、通告書に従いまして2つの質問をさせていただきます。

まず、1点目の対馬の不漁対策についてですが、ヤリイカ、スルメイカの大不漁、そして、ヨコワ、マグロの制限で本当に漁師の方たちはもがき苦しんでおります。それにつけ加えて燃油の高騰で、漁に行こうにも漁に行けない人もおります。島内の水揚げ高は、平成5年から9年は大体約330億ほどあっていましたが、平成30年度は141億、半分以下まで激減をし、今の現状がいかにかしいということがよくわかります。組合員数も、10年前は約4,600人いましたが、今は600人も減って約4,000人まで少なくなってきております。

生活に追われるものだから、漁を諦めて、船も売りに出し、転職する人、また、島外に出稼ぎ

に行く人もかなり出てきました。船は売りに出しても、前はすぐに売れていた船も、対馬がそのような不漁状況だから売れもせず、たまたま売れたにしても処理代みたいな安い単価の取引です。

また、燃油にしても安いときのガソリン単価で、現在は1リットル90円、少し下がっても87円ぐらいのA重油代です。

このままでは、漁民の方たちはとても生活ができなくなります。若い漁業者の人たちほど島外に出て行き、残るは高齢者のみが島にやむなく住むということが現実起きてくると思われま

そのようなことが起きないうちに、何とか打開策を打たないと大変です。国境離島新法も有効活用して、漁民を助ける方法をとってほしい。

また、この国会でも、2月12日の衆議院の予算委員会で、安倍総理が逢坂誠二議員の質問に対して、不漁対策資金は353億円を補正予算及び来年度当初に予算づけしていると言われました。このような資金も活用し、国、県、市で対策をとってください。そして、漁民の生活を安定させてほしいのですが、どのようなお考えでしょうか、お尋ねをします。

次に、2点目の、平瀬原地区の防火水槽から先の道路の舗装について。

この地区は、昨年、市長の寛大な配慮のおかげをもちまして、立派な集会施設をつくっていただきました。地区の住民も非常に喜んでおり、フル稼働で今、利用させてもらっております。

そのような折、株式会社ウエノの横を通り、上に登りますと、防火水槽があります。その先から未舗装なので、雨上がりとかは少し下り坂になっているので、大きく溝が2つにも3つにも分かれて、車はもちろんのことですが、高齢者の方たち、こどもたちは非常に歩くのに支障を来しております。

所帯数は56所帯で、150人程度の住民ですが、この地区は景観もよいので、毎年新年は初日の出を見る人たちで海際の道路はいっぱいにぎわっております。

また、そのような環境のよい条件なのか、毎年のように家が建ち、当然こどもたちもふえて、地元の大船越小学校、中学校に通っております。

一番困るのが、少し天気の悪い雨降りの日の集会施設での会合は、普通の若い人たちでも足元に気を使いますが、高齢者の方たちはなおさら足元を気にしますから、集会を欠席するときもあるそうです。

こどもたちからお年寄りまでが、足元を気にせずに学校に、また、日常の生活ができるように、防火水槽からの舗装をしていただけないかお尋ねをいたします。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 大部議員の御質問にお答えいたします。

初めに、不漁対策についてでございますが、水産業の現状といたしまして、海水温の上昇、漁

獲資源量の減少と複合的な要因により、全国的な漁獲低迷が継続しており、特に対馬の主要魚種でありますスルメイカについては、令和元年の全国の水揚げ量を見ても、過去最低であった平成30年の4万1,697トン大きく下回り、前年比21%減の3万2,861トンであったと報道がされております。対馬市においても同様であり、漁業者の皆様にとって非常に厳しい経営を強いられているものと感じております。

スルメイカの資源量減少対策につきましては、減少要因の究明や助成内容の拡充等について、各自治体、漁協関係者等による国への要望が全国的に実施されており、漁業者間で懸念をされておりますクロマグロによる捕食や漁具の破壊被害が増加していることについて、水産庁からイカの漁獲減とクロマグロの因果関係について調査するとの見解が示されております。

また、全国屈指の好漁場であります石川県能登半島沖にある大和堆において、外国漁船による違法操業が頻発しており、令和元年に水産庁による退去警告は5,122件であり、乱獲はもとより日本船の安全操業が確保できないなどの報道がされております。

水産庁によりますと、令和2年漁期におけるスルメイカの漁獲可能量について、過去最低でありました前年期をさらに15%下回る5万7,000トンと提案されており、主に日本海側でとれる秋生まれ個体群は、平成25年に182万トンあった資源量が63万トンまで減少していると発表されております。

クロマグロにつきましても、対馬近海の資源量は回復傾向にあると地元漁業者の皆様には聞き及んでおりますが、令和2年漁期、第6管理期間でございますけれども、ここにおける漁獲配分は、全国的に見ますと、台湾から300トンの大型魚枠が移譲されるものの、沿岸漁業における長崎県の配分枠は、対馬海区におきましては、第5管理期間に対し基本配分で、小型魚が約33トンの増、大型魚が約6トンの増にとどまっており、抜本的な改善にはならず、依然として厳しい状況であると考えております。

令和2年度の対馬市における水産業振興対策としましては、漁業用の燃油高騰対策につきまして、昨年12月定例会でも上野議員から質問をいただいたところでございますが、現在、漁協組合長会と連携を強化しながら、漁業者の皆様が求める今現場に必要な対策への転換も含めて、協議を進めているところでございます。

また、クロマグロの問題につきましては、漁獲規制の課題はありますが、混獲回避の取り組みに対する支援として、混獲回避用の機器導入、漁具の改良、混獲回避が可能な漁法への一時的な転換に要する費用等への支援について、今年度から定置網漁業に加えて漁船漁業への支援が拡充されたことから、これらの事業を有効に活用していただくよう関係団体への周知等に努めてまいります。

さらに、輸送コストの助成についても、単価の見直しと実情に応じた検討を行い、地元との連

携を図りながら、競争力ある水産業の振興に努めてまいります。

次に、平瀬原地区の道路の舗装についてでございますが、この件につきましては、これまでも平瀬原地区から要望がなされているところでございまして、状況につきましては承知をしているところでございます。

この道路は、宅地開発によりまして新たに設置されたもので、土地の所有者につきましても大半が開発業者の名義となっていることから、開発業者により整備されるべきもので、市が私有地を整備することは難しいと考えております。

本来は、開発事業者等が市道の認定基準に沿って舗装や側溝、のり面等を管理上支障が生じない程度に整備した後、市が市道として認定し、維持管理していくべき案件であります。今後の対策を講じるためには、地区の協力や地権者の同意を得る等、クリアしなければならない課題があると考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 16番、大部初幸君。

○議員（16番 大部 初幸君） 市長の答弁、よくわかるんですが、今、スルメイカが不漁だから、その不漁対策としてスルメをふやすということは、ほとんど不可能なんです。それに対して、今現在、漁民が困っているのは、この燃油の高騰、それからいろんな経費削減をしているんですけど、なかなかできてないということです。

水揚げ額もそうですけど、今、A重油が言ったようにリッター90円前後ですよ。これ、平成10年のころは、ガソリンが福岡でリッター85円だったんです、もう皆様もわかっていると思いますけど。言い方を変えたら、今の漁師さんはガソリンをたいてイカ釣りをしとるわけです。生産になるわけがない、私はそう思うわけです。これをどうしても、このA重油の、まず1点目の補助です。これずっと前に、平成15年のころに、やはりA重油が高くなったときに、漁連さんがA重油リッター5円のバックしたですよ。そういうことがありましたよね。

だから、じゃあ市もどうかせるとか急に言われてもあれでしょうけど、漁民が何とか生産性がとれるのはリッター60円、セーフティーネットもそうやないですか。60円が限界だということは、皆さん御存じですよ。

それで、私なりに思ったのが、今全国で、1道2府37県でしょう、確か。40ですよ。安倍総理が353億円の不漁対策資金をこしは予算に入れとると言われました。ということは、これを40で割ったら、県に対して約9億の、均等割した場合です、もちろんそれはいろいろあるでしょうけど。

そうなったとき、私なりに考えたところが、対馬の25年度ですけど、大体25年と今の水揚げ高は余り変わらんわけです、昨年までは。それを計算したとき、25年度島内の漁業活動にお

けるA重油消費量というのが1万4,900リットルというのが出ているんです。1万4,900リットルが対馬島内のA重油漁業者が活動した燃油の給油数というのが出ているんですけど、これを今、90円、60円の漁民が何とかやれるというのが60円ということが、もう昔から言われているわけですから、今重油が90円になったにして、30円を補助しても1万4,000キロを掛けても4億ちょっとやないですか、4億2,000万。

だから、4億2,000万をくれとは私たちも言えませんが、安倍総理が言った353億だけでも有効利用してもらえれば9億もいらないうわけでしょう、長崎県は壱岐市、対馬市、五島市とあるわけですけど、割っていてもそこまでかからんわけですよ、9億を上手に割ってもらえばそれに対して、またセーフティーネットとか、国境離島新法なんかをうまく利用していけば、私は漁民が安定して操業できる60円から上は補助でできるじゃなからうかと、私なりのこれ単純な計算です。

国会の安倍総理の答え353億を聞いたとき、絶対にこれは漁民にとっては大変助かる補助だなということで一般質問させてもらったわけです。この件、どんなもんですか、市長。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私もこの安倍総理がおっしゃったと言われます不漁対策資金353億円とは聞いておりませんので、これはまた後ほど調べたいという思いを持っております。これを先ほど申されましたように、40県ぐらいで割ったら、平割りすれば、約9億近くなるかと思えますけど、長崎県は北海道に次ぐ水産県でございますので、もう少し金額は上がるのかなと思っておりますが、果たしてこれでどんだけの資金が出るのかというのは、また後ほど報告をさせてほしいと思います。

それで、今現在、対馬市では、この漁船のエンジン等の積みかえのほうの補助をこれまで実施してまいりました。といいますのが、やっぱりこれも一つの燃油の高騰対策でございますので、こちらのほうが漁民のほうからもニーズがあるような話も聞いておりましたので、これまではそういうことで実施をしてまいりましたが、近年、やっぱり大部議員おっしゃられるように、この不漁対策、そして燃油の高騰によりまして、一部の漁民や組合長のほうから、直接の燃油高騰に対する援助のほうに切りかえはできないかというようなお話をいただいております。

そこで、漁協の組合長会のほうから要望に見えられたときに、もし組合長会の総意で、燃油に対する直接的な補助を希望されるならば、これまでのエンジン積みかえ等の競争力強化型からこちらのほうに乗り換えることも可能ですという返事をしました。

ただし、市も財政的に大変厳しい状況でございますので、市だけの補助じゃなくて、漁協みずからも幾らかの補助できるような形で考えてくださいと。一緒に連携をして取り組みましょうというお話をさせていただいたところでございます。まだ、その最終的な結果は出ておりませんが、

今後また組合長会のほうからそのような要望が出てくるものと思いますので、その際には前向きに検討をしてみたいと思っております。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 16番、大部初幸君。

○議員（16番 大部 初幸君） 今、市長は、安倍総理の353億円は知らなかったというわけでしょう。これ2月12日です。2月12日の衆議院の予算委員会で安倍総理が直接言われるのを私も聞いて、すぐ控えていたんです。353億円の不漁対策資金を今回は予算づけしているということを言われましたので、だからさっき言ったように、353を40県、1道2府37県で割ったとき、40で逆算、簡単に割ったときは9億ですよね。だから、それは地区によって漁民の多いところもあればいろいろですから、均等ということはないでしょうけど、この金も別途不漁対策資金として国がつくっているわけです。今、コロナ対策資金で1兆5,000億とか予算組んでるやないですか。それと一緒にですよ。

だから、これを有効利用して、今の漁民が苦しんでいる、燃油が60円が安定生産単価なのに90円、強いて言えばまだ上がるかもわかりません。その枠を補助してくださいということを行っているわけです。私たちみたいな素人考えでいけば、1万4,000キロリットルというのはもう出とるわけですから、これ市のほうからもらった資料ですけど、24年度、25年度、島内の漁業活動におけるA重油消費量というのがあるんです、これが。これを1万4,000キロリットル、今たいていはずです、漁業者は沖に操業してないわけですから。

ということは、60円以上上がった単価を全額補助しても、逆算すれば余るといような計算を私はしたもんですから、そこの中でいろいろあるでしょうけど、そこの中で市長言われていたエンジン換装の補助とか、いろんなやつもあると言われてはいますが、そこまでなくても国境離島新法とかそういうのをフル活動したら、何とか補助ができるじゃなからうかと私なりに思うわけです。

それで、漁協組合ももちろん一緒になって組合員を助けないかんというのは市長も言われていますけど、当然ですけど、組合が手助けする言うても、燃油の手数料がその地区に、漁協によって違うんです。4%のところもある、5%の手数料取っているところ、いい経営のところは2%かいうところもあるそうですけど、もうそれぐらいです、組合が今緊急のときに手助けしきる方法というのはないと私なりに思うわけです。だから、やっぱり何としてでもこの方法をとってもらいたい。

それと、またもう一つは、またこれがきちっと片づけてから言おうと思うとったんですけど、輸送費運賃の件もこの燃油のほうがはっきりわかってから、もう一つ質問したいと思います。

どうかならんかということで、今私が言ったのはもうそれぐらいしか組合できないということ

を、組合長やないから言えませんが、ほとんどできないと思うわけです。何とかやっぱりこの国の、安倍さんの言った不漁対策資金を有効利用して何とかできないか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 先ほどもちょっと申しましたように、私も2月12日の衆議院予算委員会で安倍総理が申されたという353億円については把握しておりませんので、ちょっとこの場で答弁は差し控えさせていただきます。もし部長がわかればですけど。

○議長（小川 廣康君） 農林水産部長、佐々木雅仁君。

○農林水産部長（佐々木雅仁君） 先ほど大部議員が言われました不漁対策資金の353億の件ですけども、私どものほうにまだ情報が入ってなくて、その内容等については把握できておりませんので、今後概要等がわかれば、例えば燃油の補助に充てられるとか、その辺がわかれば、またそのほうで対応を考えていきたいと思っております。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 大部議員、ちょっと指摘しておきますが、この公の場所ですので、安倍さんとかそういった呼び方はちょっと慎んでいただければと思いますけど、言葉に注意してください。

○議員（16番 大部 初幸君） わかりました。

○議長（小川 廣康君） 16番、大部初幸君。

○議員（16番 大部 初幸君） 今、議長から言われました安倍さんやなくて安倍総理大臣、2月12日のこの353億円は逢坂誠二議員に対する回答やったんですけど、まだ内部的に来てないというのは、まだ内閣が成立されてないから来てないじゃないですか、多分、と私は今答えを聞いて思うわけです。きちっとすれば出る、間違いなく言われたわけですから、と思います。そういうふうなことは間違いなく言われてますんで、必ず内閣は成立するわけですから、その答えが出たときは市長、今の答弁にあったように、有効利用して何とかしてください。燃油のほうはそれにします。

それと、もう一つ輸送費補助の件をお願いしたいわけです。やっぱりこれ漁民にとっては大きなことですけど。

22年度が150億の水揚げ高で、箱数にしたら約334万2,000箱だったそうです。これも市のほうからの資料をもらって私も答えているわけですけど。だから、それに対する海上輸送費が、福岡までが大体200円ですから、そのときは6億7,000万。その後は大体29年度までは150億ぐらいの水揚げ高、そこに何億が上限ありますけど、大体の推移できてますよね。

でも、去年は大幅に下回って100億ぐらいまで対馬島内の水揚げ高は落ちているそうです。

100億ってないかもわかりません。

それというのも、12漁協ありますけど、イカ釣り漁業中心の大型船の多いところなんかは、テレビだからどこの漁協名とは言われませんが、やっぱり6億、7億の昨年より水揚げ高が落ちているそうです。上から下までずっとといっても2億から3億はほとんどの漁協で水揚げがダウンしているわけなんです。

そういう中ですから、今、市のほうと県とで約160円ですか、200円の運賃の補助が出ているのが、多分そうだと思うんですけど、間違っと思ったらまた答えをしてください。残りの40円を、もうこういう不漁対策で全額輸送費はもたれないものかお尋ねをします。

それというのも、これ国、県、市で、今までは3分の1ずつで補助が出ていましたけれども、これをさっき言ったように単純で割れば、市は6億7,000万で3分の1で2億でしょ。だから、水揚げ的に下がっているわけだから、2億までかからんぢやないかなと思うわけですけど、市長が首振りよるけど、違うところがあったら言ってください。お願いします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） この有人国境離島法の輸送コストの助成につきましては、国、県、市合わせて80%、その輸送費の80%の高率の補助となっております。恐らくこれ以上の補助というのは難しいものというふうに思います。議員さんおっしゃられるように、100%というのはなかなかこれ以上は難しいということで、勘弁してほしいと私は思います。

○議長（小川 廣康君） 16番、大部初幸君。

○議員（16番 大部 初幸君） 勘弁してほしいのはわかるんですけど、今回で予算委員会が成立した場合に、この353億というのがどうしてもあるものですから、そういう金がもうなかった金と思えば、どちらにしても配付があるわけですから、何億か対馬に来るわけやないですか。だから、はっきりわかったときは、またわかったときの回答で、市長、そうしないと353億は絶対間違いはないですよ。だから、そういうところで、353億の割り振りで何億か対馬に来たときは、それも考えましようぐらいの答えは出せませんか、どうぞ。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私、きょうここに詳しい資料を持って来てませんから、ちょっとわかりませんが、この対馬市の輸送コストの助成は、全体で約8億5,000万か6,000万ぐらいあったと思っております。これに今のところ353億円が、私自身全くこれが見ておりませんので、どうなるかちょっとわからない中で、ちょっとお答えは難しいということでございます。

○議長（小川 廣康君） 16番、大部初幸君。

○議員（16番 大部 初幸君） わかりました。市長としては確かに言いづらいところだとは思いますが。その運送費に関しても、できればそういう回答を万一のときはしてほしいし、組合長会

も恐らくそれぐらいのことは要望してくると思います。そのときはぜひともいい回答を、市長頼んでおきます。

それから、次の2問目で、平瀬原の舗装ですけど、確かに昨年、当初に言ったように、立派な集会施設をつくってもらって、地元は喜んでいるんですけど、市長もこの前自分の選挙活動であそこを通られてわかると思うんですけど、確かに道が舗装してないところがあるでしょう。あそこひどくて、砂利は入れるんですけど、砂利というのは溝に入れたときに砂利入れても2か月もてません、飛び出てしまっ。それでみんなが困っているわけです。

もともと市長の今の答弁にもあったように、地権者がするのは当然、開発者が当然なんですけど、開発者はもうとうの昔になくなって、そのかわりに全ては自分たちでいいことやったら協力します、できますということで常々言っておられたし、集会施設の土地にしても、名前言いますけど小島善和さんの、開発者の人が提供されて、今度立派な形で集会施設つくってもらったんですけど、その周りも同じ状況ですけど、舗装ができとるやないですか。あれ市有地になつとるでしょう、ですよ。

だから、残された分もわずかですから、あそこも市有地として、もちろん地権者は、今管理人の方は、名前は伏せますけども、おられるわけですよ。その人に聞いても万一市有地としてそういう工事をしてもらえるんなら、市有地認定をいつでもしますということなんです。そこでそうなった場合、私も現地に行って、市有地ということになれば4メートル以上の幅員がないとだめでしょう、それは全部はかって来ています。もう御存じと思うんですけど、4メートル以上の全部幅員があつて、いつでもそういう形がとれる状態なんです。

万一そういう市有地認定をしていただけるんなら、私もあしたでもすぐ向こうに連絡して、市のほうに自分のほうから市有地認定をしてもらってくれということも言ってもいいわけですけど、地権者のほうがそれで土地は提供します、登記も変えますということになれば、市長、舗装はできるわけですね、市有地認定はできるわけですね。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 先ほども答弁の中でも申し上げましたけども、本来であれば、やはりこの開発業者がきちんと側溝、舗装まで整備をして、市のほうに認定をもらって、市道に寄附をするというようなことになっておりますけども、今、この団地と申しますか、平瀬原地区の道路等につきましては、ここは開発された事業者の方が途中で亡くなられて、今現在も舗装とかそういったところが行われない状況になっているというふう聞いております。

しかしながら、ここに今住まれている方々にとりましては、何にも本当不利益をこうむっておられるわけでありますので、もしこの地権者の方が、用地の無償提供や抵当権の抹消等に応じられるということであれば、市道としての認定することも可能ではあるというふうには思ってお

ります。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 16番、大部初幸君。

○議員（16番 大部 初幸君） ありがとうございます。今、市長のそのありがたいお言葉ですけど、もう担保にしてもあるところに入っているんですけど、こういう公共の建物とかそういう市道認定とかするところやったら、その担保にとってある公共のところですけど、いつでも抜きますということなんです。実際に公民館も入っていたんですよ、あそこ。でも、そういう公共の建物、公民館ということやったら抜きますということで、すぐあれ抜いてもらったんです。

今、この道路にしても、先ほど言うように、地権者のほうもすぐそういう動きをしますから、ぜひよろしくということやったんです。だから、そういう形がとれたときは、市長、そういう形でぜひお願いします。

そうしないと、ここはさっきも言ったように、下に小学校、中学校があるんですけど、みんなあそこの住民のこどもたちは、あの道路を通るわけです。ぐるっと回らんわけです。遠くなるし、学校自体も国道は通らずに内側を通りなさいという指示ですので、今舗装してないところを歩いてすぐ大船越のほうに行くわけです。あそこガードレールもなかったんですけど、そういう状態やったから、私が町議のときにあそこは、ガードレールはつけてもらったんですけど、そういうことで市長、今小学校、中学生で26名程度の生徒がおるんですけど、こういう話もされて、学校の先生もすごく期待されているんです。できるだけそういう形を、一日も早い舗装をできるようにしてもらえるようお願いしてくれませんかということですので、私もこれがそういう市長の旨をきちっと伝えて早急に動きたいと思います。

できれば、市長これは雑談ですけど、私が町議のときに、松村町長に「町長、ブーメラン方式をとってください」と言ったことがあるんです。「何か、そのブーメラン方式は」と言われるから、ブーメランといったらぽっと投げても、クの字になったあれですよ、今のこどもは知らんかわかんけど、よく裸族のほうに投げて獲物とかとるやないですか。だから、手元から放り投げて投資をしても、ブーメランは戻ってくるからブーメラン方式をとってくださいと言ったら、「お前いいことを言うの」と言いよったけど、ぜひそういうブーメラン方式をとってください。商売人は投資しても必ず利益が戻ってくるということで投資をしていくわけですから、ひとつよろしくお願ひしときます。ありがとうございました。

○議長（小川 廣康君） これで、大部初幸君の質問は終わりました。

---

○議長（小川 廣康君） 以上で本日予定しておりました市政一般質問は終わりました。

本日はこれで散会とします。